

米国株の今後のカギを握る米企業決算の注目点

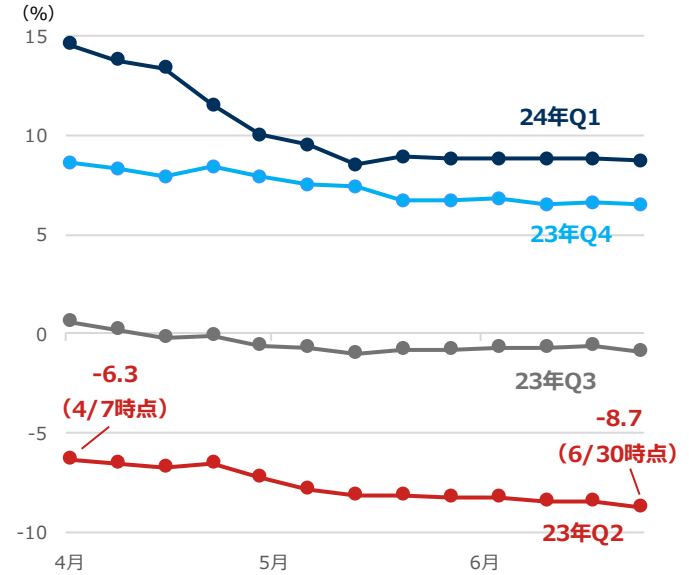


シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米企業決算への市場の期待は低い

米国株の今後のカギを握る米企業の決算発表が本格化します。23年4-6月期のS&P500企業の予想EPS成長率は6月30日時点で前年同期比8.7%減となっています。世界的な金融引き締めによる製造業の景況感悪化を受けて、4-6月期の同成長率は4月7日時点（6.3%減）と比べ下方修正されています（右上図）。また、FRB（米連邦準備制度理事会）の高金利政策が長期化することへの懸念から、先々の同成長率も下振れ傾向にあり、米企業決算に対する投資家の期待は低いと考えられます。

S&P500企業の予想EPS（1株当たり利益）成長率

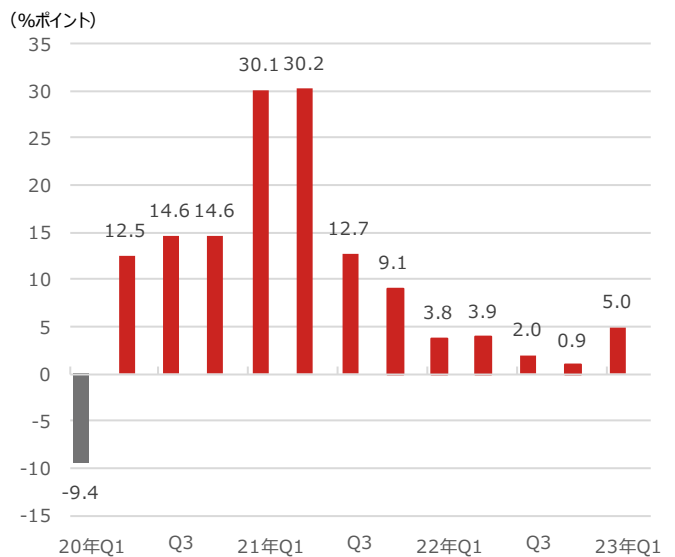


期間：2023年4月7日～2023年6月30日、週次
 ・2023年Q2（4-6月期）～2024年Q1（1-3月期）のEPS成長率が対象
 ・予想EPS成長率は前年同期比（Bloomberg予想）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

ポイント② 事前予想を上回る決算となる傾向

ただ、米企業決算は事前予想に対して実績が上振れる傾向が続いていることは見逃せないポイントです。新型コロナウイルス感染拡大で世界がパニックとなった20年1-3月期こそ、実績が事前予想を下回る結果となりましたが、その後は23年1-3月期まで12四半期連続で、実績が事前予想を上回る結果となっています（右下図）。

S&P500企業のEPS成長率の事前予想と実績値との差



期間：2020年Q1（1-3月期）～2023年Q1（1-3月期）、四半期
 ・事前予想は決算期終了直前週の数字を使用
 ・EPS成長率は前年同期比
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

足元の米国株はPER（株価収益率）主導の期待先行の株高となっており、今回の決算発表において業績面での上振れが確認できるかが焦点です。業種別では、コミュニケーション・サービスの増益転換（前年同期比12.4%増）が見込まれているほか、情報技術も2四半期連続で減益幅が縮小（同4.6%減）するとみられており、時価総額比率の高いハイテク株を中心に業績の持ち直しが期待されます（Bloomberg予想、6月30日時点）。生成AI（人工知能）の急速な普及などもあり、ハイテク企業を中心に先行き業績への明るい見方が広がれば、米国株の上昇持続をサポートしそうです。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。